



かどや通信

第9号

発行日：平成27年9月

発行行：かどや保存会

発行責任者：清水 久行／編集：廣野 克子

新宿ジャズがやって来た！

今や初夏の風物詩となった「新宿トラッドジャズ in 鳥羽」は今年で九回目を迎え、七月五日の十八時から鳥羽市民文化会館大ホールで開催された。

本番を控えた同日十二時過ぎ、出演者十八名中八名が楽器持参で、なんとかどやを訪問してくれた。これは、同コンサートの発起人である鳥羽市在住の鈴木剛さんの計らいによるものだ。



到着した一行は、館内見学後かどやが位置する藤之郷町内会から昼食のふるまいを受け、当日は、たまたま町内会が防災訓練の一環と

して炊き出しを行っており、昼食前だというジャズメン達を招いたもので、町内会の人達と共に、出来たてのカレーに舌鼓を打った。

昼食を終えた午後一時から「第二十四回かどや昼下がりにコンサート」新宿トラッドジャズ「かどや」が始まった。トランペットにトロンボーン、クラリネット、チューバ、バンジョー、ボーカルと次々に奏でられるブクの演奏は、ジャズファンはもとよりジャズにはさほど興味がなかった人達をもすっかり魅了した。夜の入場券を持っていなかった人達も「もっと聞きたくなかった」と、文化会館に足を運んだ人もいたようだ。

かどやの座敷は、天井が高く、壁が土壁のためか音響が非常によく、演奏者の皆さんも「またかどやで演奏したい」と言ってくれた。観客も「演奏者との距離が近くて、すごい迫力。ジャズの楽しさを満喫した」と興奮気味に語ってくれた。

ひと時の涼呼ぶウクレレライブ

八月二十三日には第二十六回かどや昼下がりにコンサート「夏はやっぱりウクレレ・サウンド」が開催され、坂井祖さんが岐阜県から駆け付けてくれた。坂井さんは、ウクレレ工房アンセスターを主宰する個人製作家で、ギターのように多岐に亘るウクレレを目指し、日々開発・製作を行っている。この日も自作のウクレレを携えて登場。ムーンリバーに始まり、カーペンターズやビートルズ等のおなじみの曲を独特のクールなアレンジで演奏してくれた。坂井さんの演奏会は、今回で三回目となり、坂井ファン約四十名が、一段と磨きのかかった演奏に暑さも忘れて酔いしれた。

また志摩を中心に活動している女性グループ、ウクレレ・ラブしがゲスト出演。リーダーの山本さんは坂井さんのウクレレを愛用しており、女性らしい優しくさわやかな音色を届けてくれた。



た。



夏の思い出でできたかな？

夏休みにはこども達にも積極的にかどやに来ていただき楽しい思い出を作ってもらおうと、毎年寺子屋をはじめ、様々なプログラムを実施している。

箱海作りに汗だく

八月六日には、ワクワク子供塾「フルーツポンチと箱海を作ろう」が開催され、三歳児から小学六年生までの十八名と保護者五人が参加した。

フルーツポンチは、かどやサポーターのベテラン主婦の指導で白玉だんご作りから始まった。触感が粘土細工のような白玉をワイワイ言い合いながら丸めた後は、すいかの中身をくりぬき、パイナップル等の果物を刻んだ。箱海作りはフルーツを冷やす時間を利用して行われた。箱庭を作る要領で、箱の中に貝や砂を飾って海のイメージを作るもので、鳥羽まちかど水族館の水



谷伸子代表ら三人が指導にあたった。

今回は申込が多く、箱海作りは冷房のない中庭での作業となったため全員汗だくだったが、完成後は、冷房のきいた台所でフルーツポンチの試食会が待っていた。こども達は、自分達で丸めた白玉だんごのプニユプニユした食感とひんやり甘いフルーツに舌鼓を打った。

箱海作りは全員が初めての体験だったが、思い思いの海作りを楽しんでいた。なお、完成した箱海は、八月末まで鳥羽マルシェに展示された。

タケちゃんに折り紙を学ぶ

なかまちマーケット開催日の八月二十三日には「タケちゃん」の体験折り紙教室が開催され、なかまちを散策中の家族連れ等二十三名が参加した。

子供の頃から折り紙が得意だったタケちゃんは、パンダや恐竜をはじめ、折り紙水族館と称してサメやヒラメ、タツノオトシゴなどを壁に飾り、その中から参加者が希望するものを一人ひとりに丁寧に指導した。

午前中は参加者が殺到したため急きょお嬢さんをアシスタントとして呼び出したほどの盛況ぶりだった。午後には午前中に



すっかり折り紙のとりこになったお子さんが「もっと教えて」とお母さんと共に再来。難

パンダに挑戦したが、呑み込みが速く、師匠のタケちゃんを驚かせる一幕もあった。

こどもゴスペル隊が熱演!

「こどもゴスペル イッピーコンサート」が八月二十八日十時半から十一時まで行われ、午前中にもかかわらず約三十名がこども達の歌声に声援を送ってくれた。



出演したのは岡山市の赤磐教会のグループで、五歳から中学二年生までの十名。フィンランド発祥のこどもゴスペルグループ「イッピー」は、

世界七十六ヶ国で展開されており、翌二十九日に鳥羽教会で行うコンサートのお披露目を兼ねて行われたもの。「イッピー」とはフィンランド語で「やったあ!」という意味だが、観客の温かい拍手は、出演者たちにとっては「やったあ!」と思える素敵な思い出になったに違いない。

寺子屋がテレビ中継!

かどやでは、一般公開が始まった三年前から、夏休みには寺子屋と称して「クーラーのきいた涼しいかどやで宿題を」と、平日の午前中をこども達に解放している。今年は、元高校教諭の貞森さんがボランティア指導員として参加してくれるなど体制も充実。初日の七月二十二日には十三人が参加し、八月十日までに延七十九人が利用し、その後も二十八日までに延十一人がかどやで宿題に取り組んだ。

こども達に寺子屋に来る理由を聞くと「テレビがないので、勉強に集中できる」「友達と一緒にできるので、宿題を教え合ったりできるので、宿題がはかどる」等、効率よく勉強ができると答えてくれた。



そんなある日、中京テレビの旅番組「ゴリ夢中」(お笑い芸人のゴリさんが旅先の人達と触れ合う番組)のゴリさんが突然かどやを訪れ、たまたま寺子屋に来ていたこども達を取材した。突然のテレビカメラ出現にこ

ども達は驚いたようだったが、ゴリさんはあつと言つ間にこども達と打ち解けて、すっかり盛り上がりつついた。その模様は九月五日十一時四十五分から放映される。

終戦月に平和を願い朗読会

「八月に寄せて」と題する朗読会が八月十六日に開催された。

終戦月の八月は、全国各地で平和への祈りを込めた朗読会が行われており、かどやでも戦争について考える機会になればと実施した。



プログラ

ムは、志摩市を起点にボランティアで朗読や読み聞かせ等の活動を展開している

「おはなしライブぴっころ」の岡崎紀美子さんが企画し、岡崎さんと、かどやのサポーターで編成されたかどやシスターズの四人に加え、かどや保存会の清水会長も朗読に挑戦した。

作品は、作家の向田邦子さんが疎開した妹への家族の思いを描いた「字の

ないハガキ」や、宇治山田市現在の伊勢市(出身の詩人で二十三歳の若さで戦死した竹内浩三さんの詩等)編だ。出演者は朗読経験がほとんどなかったが、7月から岡崎さんの指導のもと練習を重ねた結果、当日の出来栄は素晴らしく、戦争が及ぼす悲しみが深く静かに伝わる内容となった。

京都からの観光客もひととき朗読に耳を傾けて、「とてもよかった。八月は女優の吉永小百合さんなど、役者さんが朗読会を開いているが、旅先でこういう朗読を聞けるとは思わなかった」と言い、地元の参加者からは「作品の選択が素晴らしかった」「鳥羽でこういう試みは初めてだと思うが、とてもいい企画なので、ぜひこれからも継続してほしい」と話してくれた。



被爆者で詩人の峠三吉さんの「序」を朗読した清水会長は、「学芸会にもでたことはなく、人前で演じるのは今回

が初めてだったが、独特の緊張感と達成感があり、いい経験になった。もっと若い頃に経験できなかつたのが残念」と言い、「近所の子供たちにも人前で演じる体験ができるようなイベ

ントを、かどやで企画していきたい」と語っていた。

縁の下の仲間たち

「いろんなイベント企画して、頑張ってるなあ」とうれしい言葉をかけていただくことがある。ITに強い事務員Tちゃんは毎日テキパキとパソコンを操作してくれるが、Tちゃん以外にも縁の下で支えてくれる強力な仲間たちがいる。

Cちゃんは、婦人会をはじめ様々なボランティア活動に積極的に参加し、人脈が広く、どんな仕事も迅速に処理して、仕切りがうまい。和裁の得意なSちゃんは、コツコツタイプ。かどやで人気の甘酒は彼女の手作りだ。手間がかかるが、頼めばにこやかに引き受けてくれる。仕事が大変で、特に窓ふき術で右に出るものはいない。元教師のKちゃんは、企画力が抜群だ。イベント企画で悩んでいると、ピカーのアイデアを提供してくれる。接客にも長けていて、お客様との会話でかどやとの絆を強めてくれる。タイプの異なる三人だが、笑顔のチャーミングさは共通している。他にも得意分野を活かして協力してくれるサポーターたちがかどやを支えてくれている。

しかし、縁の下でどんなに頑張っても来てくれるお客さまがいればこそ。是非今後とも気軽に立ち寄りください。

かどや塾では

日本酒再発見!

第十八回かどや塾は、「日本酒再発見」新たな日本酒の時代へ」と題して六月十四日に行われた。

伊勢神宮では、神前に捧げる御酒の醸造の成功と酒造業者の繁栄を祈願する御酒殿祭が、六月、十月、十二月に行われる。そこで、その神事に因んで六月に日本酒について改めて学んでみよう企画されたもの。講師は若戎酒造・営業課長の守道一宣さんで、日本酒の歴史からカクテル風の新しい飲み方まで、幅広い知識を紹介してくれた。終了後は、中西酒店に場所を移し、酒ムリ工を自称する店主・中西さん一押し日本酒も試飲した。

なお、当セミナーの開催を知ったかどや保存会会員の野村直さんは、直径三十五センチ重さ二十キロの特大の杉玉を作ってくれた。杉玉作りは初めてだったそうだが、立派な出来栄で、かどやのスタッフを感激させた。



片付けの極意をプロに学ぶ

七月十二日には「あなたも今日から片付け上手」と題して、片付けコンシェルジュの西村みきさんをお迎えし、効果的な片付けのコツを教えてくださいました。

西村さんは「片付けが下手なのは、性格ではなく習慣」と強調。初めは「ここを一分だけというように出来ることから習慣づけることが大切」と話し、必要なモノの量を決め、使用頻度でモノを分別する等、整理収納の六つのヒントを紹介してくれた。また、片付かないのはモノが多過ぎるからだと言い、捨て方の基準やどうしても捨てられないモノの処分の方にも触れた。

さらに、モノの整理収納力が増すと、モノが簡単に出し入れでき、探す時間が短縮できる時間的効果だけでなく、無駄買いや二度買いが防げる経済的効果や、「片付けなければ」というストレスもなくなる精神的効果にも言及した。

参加者は日々片付けと戦っている主婦層が多かったが「モノを捨てるのは抵抗があったが、とても参考になった」と話してくれた。

貸部屋の案内

かどやを有効にご活用いただくこと、一部の部屋を貸部屋として貸し出しています。茶話会や勉強会、展示会などにご活用ください。詳細は、かどやへ。電話〇五九九―二五八六八六

時間区分 部屋	午前	午後	全日	冷暖房設 備利用料
	10時~12時	13時~16時	10時~16時	
座敷南(10畳)	500円	600円	1,000円	500円
座敷北(8畳)	400円	500円	900円	—
仏間(6畳)	300円	400円	700円	—

- ・営利目的の場合は、料金表の10割増しとなります。
- ・鳥羽市民または市内勤務者以外の利用は、料金表の5割増しとなります。
- ・許可された使用時間を超過する場合は、割増料金が発生します。
- ・冷暖房費は、全日使用の場合は2倍になります。

かどや保存会 平成27年度会員募集中!

かどや保存会は、歴史的文化財である「鳥羽大庄屋かどや」の保存ならびに効果的な活用・運営をめざして活動を続けており、当会を支援して下さる会員を募集しています。お陰さまで26年度には、278名の方々に会員登録いただきました。今年度も8月31日現在で、すでに284名の方が登録してくださいましたが、さらにこの和を広げたいと思います。登録がまだの方は、是非ご支援くださいませよう、よろしくお願い申し上げます。

本年度(H27/4/1~H28/3/31)の年会費(2,000円)は、継続・新規を問わず、以下の方法で納入ください。(1)手渡し:かどやにお越しいただき、直接事務局にお支払いいただく。

- (2)銀行振込: 郵便局 普通 かどや保存会 00850-4-151751
百五銀行 普通 かどや保存会 801-460713